

○ 泉大津市における検討では、RPAを活用することで、実現できるパターンの一例として、以下のシナリオが提示されている。

実現パターンの概要

実現パターン	適用事務	削減見込	実現費用（初期費用）	
			RPA※1	システム改修※2
登録されたデータをインプットとして計算を実施（4機能）	<ul style="list-style-type: none"> ✓【税務課】申告情報（eLTAX）の取込み件数の集計 ✓【税務課】土地評価計算（現地調査結果の情報整理） ✓【保険年金課】窓口での市民からの問合せ時における国保の賦課額のシミュレーション計算 ✓【保険年金課】減免額計算（減免申請時の賦課額の期割計算） 	228時間	2.4百万円	4.0百万円
登録された複数のデータを照合して差分を検出（3機能）	<ul style="list-style-type: none"> ✓【税務課】過誤納情報と滞納情報の紐づけ確認 ✓【人事課】社会保険料の支払金額に関する、Excelデータとシステムデータとの突合確認 ✓【会計課】支出命令と支払関係資料（口座振替データ、納付書）との突合確認 	766時間	1.8百万円	3.0百万円
特定データ・任意レイアウトでの帳票出力（8帳票）	<ul style="list-style-type: none"> ✓【人事課】各種帳票出力（出力項目、レイアウトの変更） ✓【税務課】共有者告知の納税通知書出力（出力項目の変更） ✓【高齢介護課】請求書出力（出力項目、フォントサイズの変更） ✓【保険年金課】充当通知書の一括出力（1件ずつの出力操作） ✓【会計課】各種帳票出力（出力項目、表示データ単位の変更） 	1,131時間	4.8百万円	12.0百万円

※1 10ロボットあたり10万円+開発費30ロボット150万円と仮定

※2 1帳票150万円、1機能100万円と仮定

RPAの導入効果の例②

愛知県一宮市（市税業務におけるRPA実証実験結果）

業務名		現状（年間）	RPA導入後（年間）	削減時間	削減率
個人住民税	年金情報異動入力	240時間	48時間	192時間	80.0%
個人住民税	特別徴収異動届	592時間	398時間	194時間	32.8%
個人住民税	年度切替処理入力	201時間	53時間	148時間	73.6%
事業所税	事業所税申告書入力	15時間	6時間	9時間	60.0%
合計		1,048時間	505時間	543時間	51.8%

茨城県つくば市（RPA実証実験結果）

業務名		年間件数	削減時間	削減率
住民登録	転入通知投入事務	10,000件	444時間26分	88.9%
→ それ以外の業務も合わせた市民窓口課の合計		16,000件	511時間06分	85.2%
法人市民税	法人番号情報の個別登録業務	2,800件	31時間06分	100.0%
個人住民税	特別徴収方法の切替処理業務	14,300件	278時間03分	77.8%
個人住民税	確定申告書の重複処理業務 （有効無効判定）	6,000件	66時間40分	66.7%
→ それ以外の業務も合わせた市民税課の合計		32,601件	470時間43分	79.5%
合計		48,601件	981時間49分	82.4%